

鏡石に伝わる悲恋の物語

大河ドラマにゆかり

町指定文化財「鏡沼跡」

鏡石町指定文化財第1号である史跡「鏡沼跡」が、NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」ゆかりの地として注目を集めています。

「十三人の合議制」を構成する一人「和田義盛」の甥にあたる「和田平太胤長」と、その妻「天留」の悲しい物語の舞台となった鏡沼の跡は現在、鏡石町鏡田かげ沼町の田園の中にあり、周辺に東屋や遊具が設置され、町民の皆さんの憩いの場として親しまれています。

これまでも、江戸時代の俳聖・松尾芭蕉が訪れ、奥の細道紀行文に記した地として語られてきた鏡沼跡。大河ドラマをきっかけに、改めてその歴史的価値が見直され、観光スポットとして盛り上げようという動きもあります。今月号では「鎌倉殿の13人」と鏡沼の物語のつながりや、鏡沼にまつわる様々なエピソードの一部をご紹介します。

鏡沼の物語を伝える様々な資料

鏡沼の物語が歴史に埋もれず伝え続けてこられた理由の一つとして、「磨光編」という本の存在があります。天保13年(1842年)、白河藩鏡沼大庄屋(江戸時代の最上位の村役人)であった常松菊畦が、それまで口伝伝承されてきた胤長と天留の物語を「磨光編」として刊行しました。磨光編の版本は現在、須賀川市立博物館に所蔵されています。また、菊畦の墓がある鏡石町の西光寺には、幕府の命を受けた刺客が胤長の元へとやってきた様子と、旅姿の天留が老農夫に道を尋ねているところを描いた掛け軸が保管されています。



西光寺に保管されている胤長の掛け軸(左)と天留の掛け軸(右)

芭蕉も立ち寄り「奥の細道」に記す

鏡沼は別名「かげ沼」とも呼ばれ、古い文献によれば、蜃気楼が起きるとも言われていました。元禄2年(1689年)4月23日、鏡沼の物語を聞いた俳聖・松尾芭蕉が奥の細道紀行で矢吹から須賀川へ行く途中でこの沼に立ち寄り、「かげ沼という所に行くに今日は空曇りて、物陰うつらず」と、期待していた物影を見ることができなかつた心残りを紀行文に記しています。



ほとりにある芭蕉と弟子・曾良の像

【鏡沼跡】
鏡石町鏡田かげ沼町 228 番地

※駐車場あります

鏡沼の物語が聴けます

町観光協会では、鏡沼の物語を音声で紹介するサービスを開始しました。

スマートフォンで下記QRコードを読み取ると、専用のサイトにアクセスします。



●問い合わせ先
町観光協会 ☎ 62-2118

●鏡沼跡を含む町の文化財・史跡についての問い合わせ先 教育課 ☎ 62-2031

3分で分かる「鏡沼」～胤長と天留の物語～

1 鎌倉の武士「和田平太胤長」

「十三人の合議制」構成人物

和田	三浦	北条	北条	比企	八田	安達	足立	梶原	三善	二階堂	中原	大江
義盛	義澄	義時	時政	能員	知家	盛長	遠元	景時	康信	行政	親能	広元



義盛の甥
和田平太胤長

鎌倉時代、征夷大将軍の源頼朝が亡くなった後、実権を握った北条氏の振る舞いに義憤を感じる者たちが企てた謀反の計画に、和田平太胤長という若き武士が加わります。「鎌倉殿の13人」に登場する和田義盛の甥にあたる人物です。

2 奥州・岩瀬の地への流刑

謀反の計画は密告によって発覚し、胤長たちは捕らえられてしまいます。義盛は一族で幕府に押し掛け、「胤長たちを許してほしい」と繰り返し懇願しました。その結果、共に謀反を企てた義盛の息子たちは許されましたが、胤長だけは許されず、遠く離れた奥州・岩瀬の地へと流されます。



胤長と幕府の刺客たち

その後、幕府の遣わした刺客によって胤長は命を落としてしまいました。31歳という若さでの死でした。

3 妻・天留、胤長を探し鏡石へ

一方、鎌倉にいた胤長の妻・天留は、武人の妻から一転して罪人の妻とされてしまいます。娘は父が捕らえられたとの知らせを受け、病に伏し、ついには帰らぬ人となってしまいました。

天留は一時出家しますが、心おさまらず、夫に一日会いたい一心から奥州への一人旅を決め、苦勞に苦勞を重ねて鏡石までたどり着きました。里人に尋ねると、胤長がいる二階堂領はすぐそこであるとのこと。天留は喜び、薄化粧をして身を整えました。



里人と話す天留

4 待ち受けていたのは夫の死

それから天留はさらに歩き、鏡沼付近にさしかかった時、里人に尋ねると「むごいことにお武士さんは役人様に殺されてしまった」と言われ、胤長が既にこの世にいないことを知ります。天留はがっかりと力が抜け、悲しみがこみあげて泣き崩れてしまいました。

天留は「この世には神も仏も慈悲もない」と、大事に持ってきた鏡を胸に抱き、沼の中に身を投げて沈んでいったということです。

一緒に沈んだ鏡は、沼の底でいつまでもいつまでも照り輝いていたといわれ、この沼は「鏡沼」と呼ばれるようになったそうです。

